

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	重度化に共ない、継続的な医療行為がない場合は、施設としては精神面での介護を中心に寄り添った対応をしているが、共に介助部分が大きくなる。、今までの建物設備では全介助の利用者の対応する場合は、職員へかかる負担が大きい。	介護技術等、専門の指導を受け、安全に双方に負担が少ない介護技術を身に付ける事が出来、利用者は”第2の我が家”として穏やかに安心して生活の維持が出来る。	①月に1度の職員会議の場を利用して、職員全員で勉強会を開き、実戦・身に付けていく。 ②定期的に理学療法士である社長に指導を受ける。 ③重度化を防ぐ為医療と連携しながら、転倒により身体機能低下にならない様に、確実なリハビリに力を入れる。 ④役割を持ち活動範囲を広げていく事により、活気ある生活が出来、重度化を防ぐ事が出来る。	12ヵ月
2	12	転倒により、骨折され認知症の為リハビリが進まず、車椅子で帰所される利用者が少なくない。何時までも自分の足で歩く事により、身体機能・精神的にも向上出来る為、確実に筋力が付く体操・食事内容の継続が必要である。	筋力が付く事で、転倒が予防でき、今の状態が維持出来、活気溢れる生活が出来る。	①毎食事の食材にカルシウムの多いものを取り入れる。 ②食事が毎回完食出来る様工夫させて頂く。 ③毎日のレクリエーションを、少し加圧を加えたリハビリ体操にしていく。 ④ホール内を歩行しれ頂く。 ⑤日中はしっかりと関わり精神面で安心して頂き、夜間の良眠が出来る様に支援をさせて頂く。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。